状遺構二二条、掘立柱建物三七棟、柵二条、竪穴住居跡九棟、井戸状遺構二基、竪穴状遺構二三ヵ所）については、その出土遺物（墨書土器―「野厨」「佐野厨家」「駅長」等、木簡―『木簡研究』第四号既報告、銅印―印文「松」・和同開珎・銙帯具―丸鞆・巡方・鉸具等）から佐益（野）郡衙の一部ではないかと考えられている。

木簡の削屑はＮＳＤ３と呼んだ溝状遺構の壁斜面に密着して発見された。こぶし大の礫を貼りしめた護岸施設と階段状の張り出し施設を有し、溝内には奈良時代後半を主体とする土器片（墨書土器を含む）が多量に集積していた。

8 木簡の釈文・内容

(1) □ □□□

□ 091

偏部が木偏と思われる一字は、或いは「松」かもしれない。

9 関係文献

建設省・静岡県・袋井市教育委員会『坂尻遺跡―一般国道一号袋井バイパス（袋井地区）埋蔵文化財発掘調査報告書―』（一九八五年）

（吉岡伸夫）

静岡・秋合（あきあわせ）遺跡

1 所在地　静岡県藤枝市南新屋字白山

2 調査期間　一九八四年（昭59）一一月～一九八五年二月

3 発掘機関　藤枝市教育委員会

4 調査担当者　八木勝行・鈴木隆夫・磯部武男

5 遺跡の種類　官衙跡

6 遺跡の時代　奈良時代～中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

秋合遺跡は、国指定史跡志太郡衙跡より低丘陵を挟んで東側に隣接する水田地に存在する。一九七八年の調査によって掘立柱建物や井戸が検出され、出土した三七点の墨書土器の内容から志太郡衙跡ときわめて密接な関係にある遺跡として注目された。

（家山・静岡）

一九七九年以来、秋合遺跡の性格把握と範囲確認のための調査を実施してきたが、今回の第四次調査によ

って奈良時代の比較的大規模な掘立柱建物、土器類や木製品類と共に二点の木簡を発見した。木簡が出土したのは、遺跡の南西隅で、当時の低湿地に面した微高地の縁部である。(1)は遺物包含層中より、(2)は掘立柱建物（SB〇四）の柱穴埋土中より出土した。

8　木簡の釈文・内容

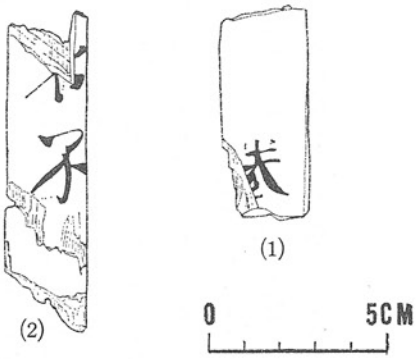
(1)　□〔巻カ〕

(59.5)×24×8.5　081

(2)　□〔不カ〕不

(92)×(22.4)×6　081

二点共に両端を折られた細片であり、字数も少いので内容を伺うことは困難であるが、(2)は「不」の文字が二字連続する可能性もあり、習書木簡の一部とみられる。



9　関係文献

藤枝市教育委員会『秋合遺跡発掘調査報告書Ⅲ』（一九八五年）

（磯部武男）

静岡・郡（こおり）遺跡

1　所在地　静岡県藤枝市立花二丁目

2　調査期間　第三次調査　一九八四年（昭59）一〇月～一九八五年一月、第四次調査　一九八四年一一月～一九八五年一月

3　発掘機関　藤枝市教育委員会

4　調査担当者　八木勝行・鈴木隆夫・磯部武男・池田将男

5　遺跡の種類　集落跡・官衙跡

6　遺跡の年代　弥生時代中期～平安時代・中世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

（静　岡）

郡遺跡は、旧東海道に沿って延びる藤枝市街地（宿場）から少し東側にはずれた立花地区に位置している。

瀬戸川のつくる低湿地に面した沖積微高地の縁辺部に広がる弥生時代中期から中世に及ぶ大規模な複合遺跡として知られ、その名称